

平成23年第3回定例会一般質問通告一覧表

質問順	受付月日	9.26	通告者	13番	根本朝栄
1番	答弁者	市長	発言時間	30分	
1	災害復興公営住宅の建設について				
	仮設住宅（民間借り上げも含む。）に入居されている方は2年後の行き先に大変不安を感じているが、災害復興公営住宅の建設について早期に意思表示を行い、建設手法等検討すべきと考えるがいかに。				
2	100円循環バスの運行について				
	西部地区及び仮設住宅へ入居されている方の移動手段の確保は喫緊の課題である。市役所、スーパー、病院等生活に関連する施設を経由し、塩竈市のしおナビや七ヶ浜町のぐるりんことも連携を図りながら、市内一円を運行する100円循環バスの早期導入はいかに。				
3	高齢者福祉について				
	本市には高齢者の憩いの場としてシルバーヘルスプラザがあるが、介護予防や生きがいづくりに大いに貢献されていることから、市内の均衡を図るため西部地区にも同様の施設が必要と考えるがいかに。				
4	信号機の設置について				
	史跡連絡線と県道泉塩釜線が交差する浮島地区内のT字路交差点は、頻繁に交通事故が発生する大変危険な箇所となっており、安全を確保するため信号機を早期に設置するよう関係機関に強力に働きかけられたい。				

質問順	受付月日	9.26	通告者	1番	柳原清
2番	答弁者	市長	発言時間	30分	
1	市内全域循環バスの実現について				
	国では、被災地のコミュニティーバスへの補助を決定したが、この補助も活用し、市内全域の循環バスを実現されたい。				
2	仮設住宅の環境改善について				
	仮設住宅の入居者からさまざまな環境改善の要望が出されている。玄関に雨風が吹き込まないよう風除室の設置、通路の舗装、室内のバリアフリー化、バストイレの介護対応化、お風呂への追い炊き機能の追加、室内へ				

	<p>の畳の設置、壁・床下への断熱材の追加、民間借り上げ仮設住宅を含む仮設住宅への暖房器具の設置等、早急な改善を図られたい。</p> <p>また、急病などの時の非常通報装置（パトライト等）を設置されたい。</p>
3	<p>新田地区の中野堀の改善について</p> <p>新田地区の西側を流れる中野堀は、震災のため中野堀が壊れ水が流れず、環境悪化が進んでいる。また、仙台市では宅地化が進み、農業用水路としての利用はほとんどないと聞いている。したがって、堀の幅は現在の堀より狭くても差し支えないと考えられる。この際、堀に蓋をして暗渠にし、脇を通っている市道を拡幅し、歩道を整備するべきだと考えるがどうか。</p>

質問順	受付月日	9.27	通告者	14番	雨森修一
3番	答弁者	市長	発言時間	30分	
1	駅前交番について				
	JR仙石線多賀城駅前交番の早期実現は、多賀城6万市民の悲願である。県関係機関とのその後の話し合いの状況を伺う。				
2	安心・安全なまちづくりについて				
	多賀城駅北側、市道留ヶ谷線（中央二丁目9及び10番地）にまたがる複雑な交差点は、小学生児童の登下校の折り大変危険な場所であり、一般市民にとっても同様である。信号機を設置し、安心・安全なまちづくりに邁進していただきたいが、市長のお考えを問う。				

質問順	受付月日	9.27	通告者	5番	伏谷修一
4番	答弁者	市長	発言時間	30分	
1	震災後72時間の検証について				
	震災後半年を経過した今、震災後3日間、自治体をはじめ各種機関がどのような対応を行えたのか、当時を分析した検証が必要ではないか。当時、津波被害の浸水地区では全くライフラインが機能せず、無秩序な状態に陥り、自身の身を守ることが精一杯であった現実を踏まえて、当時を分析した検証について、所見を伺う。				
2	宮内地区の今後について				
	集団移転も選択肢として考えていた宮内地区の住民は、先日の説明会の内容に不信感を抱き、本音（解決案）を聞きたいとの声が多く聞かれた。市としての方向性を伝えるべきと考えるがいかがか。				

3	<p>災害時の個人情報の取り扱いについて</p> <p>地区全体が被災している場合、地区の個人情報管理者（区長、民生委員等）もまた被災者である。神戸の事例を参考として、救助体制・安否確認を円滑に行えるシステムを構築すべきと考えるがいかがか。</p>
4	<p>津波被災者の心のケアについて</p> <p>9月の広報誌と共に市内全域に配布されたメンタルケアに関する冊子は、初期的なメンタルケア対応を知るという意味で、意義があった。</p> <p>しかし、発災後半年を過ぎた今、被災された方々の生活にも、大きな変化が生じている。それに伴いストレスが増大し、初期段階から次の段階への移行時期にさしかかり、被災された方も被災者を支える方も、様々な環境変化による精神的疲労が極限状態に達していると思われる。更なる継続的なサポート体制が必要と考えるが、いかがか。</p>

質問順	受付月日	9.26	通告者	2番	戸津川 晴美
5番	答弁者	市長・教育長	発言時間	30分	
1	<p>放射能汚染対策について</p> <p>(1) 現在測定されている場所に加え、市内公園、通学路、校庭・園庭の土や砂なども測定し、市民、とりわけ子育て中の父母の不安を解消すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(2) 今回の事故により、おとなの3倍から5倍も影響を受けると言われている子ども（0歳～18歳）の健康被害は、東京電力をはじめ国及び地方自治体の責任において最小限に食い止めなければならない。今後の健康管理の具体策を問う。</p>				
2	<p>高齢者福祉タクシーについて</p> <p>(1) 現在の福祉タクシー利用対象者は、身体障害者手帳1・2級及び下肢障害のある方、呼吸器機能障害のある方などに限られている。心臓疾患（ペースメーカー利用者等）の方にも拡大すべきと思うがいかがか。</p> <p>(2) 巡回バス等の利用が困難で自動車の運転も出来ない高齢者は、通院にも買い物にも不便を強いられ、引きこもりがちである。また、要介護認定者であってもタクシー料金は介護保険の対象外であり、利用者の経済的負担となっている。要介護認定者や一人暮らしの高齢者・高齢者だけの世帯に、タクシー券の配付を求めるがいかがか。</p>				

3	子どもの医療費無料化について
利府町では、10月から小学6年生まで医療費無料化が開始されると聞く。本市でも、せめて小学3年生まで拡大すべきと考えるがいかがか。	

質問順 6番	受付月日 9.26	通告者 15番	吉田瑞生
答弁者 市長	発言時間 30分		
<p>夢のエネルギー「油を作る藻・オーランチオキトリウム」生産を、宮城県中南部下水道事務所（仙塩流域下水道仙塩浄化センター）で取り組むよう、宮城県に申し入れることについて</p> <p>石油系の炭化水素を作る「オーランチオキトリウム」を発見し、研究の第一人者として知られる筑波大学生命環境科学研究科の渡邊信教授（宮城県丸森町出身で東北大学理学部を卒業）が提唱しているその取り組みを、仙塩流域下水道仙塩浄化センターを活用し、藻類バイオマスによる石油生産の実証プラントを設計し、研究開発に取り組むよう対処することについて、県に申し入れられたい。</p>			

質問順 7番	受付月日 9.27	通告者 7番	金野次男
答弁者 市長	発言時間 30分		
1	<p>危機管理について</p> <p>(1) 地震災害・風水害等様々な危機に対応するため、各自治体にも「危機管理監」「防災監」等の設置が多く見られるようになってきている。自衛官・警察・消防等専門分野において活躍している主務者を正規職員として採用し、これからの時代に立ち向かう危機管理室を設置してはいかがか。</p> <p>(2) 現在、緊急時の一斉広報は市役所2階の災害対策本部と同じ部屋、総務部交通防災課から放送している。災害時の初動状態を考えると、別な場所に機器を取り付け放送すべきではないか。</p> <p>(3) この危機管理室及び放送機器を、普段使われていない交通防災課隣接の記者室に設置してはいかがか。</p>		

2	防災備蓄品について
	宮城県沖地震に備えた15ヶ年計画（平成14年度～平成28年度）での防災備蓄品の整備について、今回の東日本大震災を教訓として、全面見直しをすべきではないか。備蓄計画及び分散備蓄について、どのように分析しているのか伺う。

質問順	受付月日	9.26	通告者	9番	佐藤恵子
8番	答弁者	市長	発言時間	30分	
1	災害公営住宅について				
	<p>(1) 入居希望者は原則全員入居できる建設計画をたて、市の責任で建設を進められたい。</p> <p>(2) 建設計画づくりにあたっては、全壊被災者及び仮設住宅入居者（民間借り上げ住宅を含む。）に対し、希望・条件等総合的なアンケート調査をされたい。</p> <p>(3) 建設工事は地元企業に優先発注し、仕事と雇用拡大に努められたい。</p>				
2	台風15号の被害対策と今後の治水対策について				
	<p>(1) 震災による地盤沈下等の影響を含め被害の状況を詳細に調査し、排水ポンプの機能増強や地下への貯水施設設置（個人住宅も含む。）等総合的な対策をとられたい。</p> <p>(2) 大代六丁目も多大な被害を受けた。橋本橋付近（六丁目側）用水通路、側溝の早急な修復をされたい。</p>				
3	貞山堀の早期浚渫について				
	<p>前回の一般質問でも取り上げたが、未だに実施されていない。県の対応を報告されたい。</p>				
4	在宅避難者への支援について				
	<p>在宅で避難している方々には、ほとんど支援が行き届いていない状況にある。</p> <p>(1) 改めて在宅避難者の健康・生活状況を調査し、福祉、医療、介護等の側面で必要な支援を実施されたい。</p> <p>(2) これからの季節に備えた暖房用具、器具等を必要な世帯へ支給すべきではないか。そのために、これらの支援物資の提供を全国に呼びかけてはいかがか。</p>				

質問順	受付月日	9.27	通告者	16番	昌浦泰巳
9番	答弁者	市長・教育長	発言時間	30分	
1	仮称第七小学校用地の利用について				
	<p>(1) 仮称第七小学校用地に防災機能を有し、地域住民が避難するのに適した施設の建設を地域住民は望んでいる。市は建設するお考えはお有りか。</p> <p>(2) 隣接する桜木保育所を仮称第七小学校用地に移転し、防災機能のある建物と併設するお考えはお有りか。</p>				
2	情報発信策について				
	3月の震災の時、本市の状況をいち早く発信できない状況が続いた。本市に縁がある関東・近畿圏在住者に協力を願い、衛星経由の携帯で連絡を取り、情報発信をすべきであると考えているが、いかがか。				

質問順	受付月日	9.27	通告者	11番	松村敬子
10番	答弁者	市長	発言時間	30分	
1	私道整備事業補助金について				
	現行の補助要綱（5世帯以上、延長35m以上、幅員4m以上に2分の1の補助）を見直し、緩和されたい。				
2	八幡雨水幹線の整備について				
	<p>(1) 今後の雨水対策、環境整備の観点から八幡雨水幹線及びその枝線の早期整備をされたい。</p> <p>(2) 具体的な整備計画（手法）について伺う。</p>				
3	震災復興計画について				
	<p>11月に発表予定されている「多賀城市震災復興計画」の重点課題である地域産業振興戦略について伺う。</p> <p>(1) 産業振興の柱に工場地帯の再興があげられているが、一本柳の工業団地化はどのように位置づけるのか明示されたい。</p> <p>(2) 「史都 多賀城」らしさを十分に活かし、6次産業化の創出をあげているが、「観光産業の創出」と明示されたい。</p>				

質問順	受付月日	9.26	通告者	10番	森 長一郎
11番	答弁者	市長	発言時間	30分	
東日本大震災における防災計画及び災害対応の検証について					
<p>(1) 塩竈市隣接地域への対応について</p> <p>ア 笠神一丁目17番地等塩竈市隣接地域への広報は、どのように行ったのか。また、今後の対応を伺う。</p> <p>イ 同地域について、一次避難所使用において塩竈市との災害時協定は活かされたか。</p> <p>(2) 災害弱者（要介護の方々）の避難について</p> <p>要介護の方々の避難場所及び搬送手段が必要であったと思われるが、今後の対応を伺う。</p> <p>(3) 民間水利（井戸）の活用について</p> <p>ア 発災後、民間水利（井戸）の開放が市民の生活の一部を支えた。所有者に対し、改めて地域住民の使用について協力を求めるとともに、維持管理に関する補助を考えてはいかがか。</p> <p>イ 所有者の承諾を得て、市及び地域のハザードマップへ掲載し、非常時の情報共有を図ってはいかがか。</p> <p>(4) 民間借り上げ仮設住宅について</p> <p>ア 当該住宅の申し込みが6月10日で締め切られた理由は何か。</p> <p>イ 県からの当該住宅借り上げ料の納入が著しく滞っている。速やかな対処について、強く申し入れすべきではないか。</p>					

質問順	受付月日	9.26	通告者	12番	阿 部 正 幸
12番	答弁者	市長	発言時間	30分	
1	仮設住宅入居者に対する今後の対応について				
<p>仮設住宅299世帯に対して、公明党市議団としてアンケート調査を行い、その結果をまとめ、8月9日市長あてに要望したが、今後の対応について具体的に伺いたい。</p> <p>(1) 雨どいの設置や玄関のひさしを長くするなどの雨対策の検討をしているか。</p>					

	<p>(2) 多賀城公園野球場の仮設住宅から、国道45号線方面へ行く階段が滑りやすい。また、パイプの手すりも滑りやすく、冬季は冷たいことから、改善されたい。</p> <p>(3) 初めての冬を迎えるにあたり、暖房対策はどのように検討しているのか。</p> <p>(4) 全ての世帯に消火器を設置した方が良くと思うがいかがか。</p>
2	雇用対策について
	<p>(1) 雇用対策について具体的な取り組みはどのように検討されているのか。</p> <p>(2) 企業誘致は、今後どのように推進するのか。</p>
3	被害認定基準について
	<p>(1) リ災証明の判定基準については、平成23年3月31日付内閣府政策統括官から「災害の被害認定基準について」で速やかなり災証明書発行のための簡便な調査方法が示されているが、市では簡便な調査方法を適用したのか。</p> <p>(2) 被害認定業務の実施にあたっては、専門家に委託することも可能であったが、市では専門家に委託したのか。</p> <p>(3) 「一部損壊」で認定を受けた世帯で、再調査の結果「半壊」となった世帯は何世帯あったか。また、「一部損壊」の認定に関して多くの市民から不満の声を聞いたが、納得のいく説明を行っていたのか。</p>

質問順	受付月日	9.26	通告者	8番	藤原益栄
13番	答弁者	市長	発言時間	30分	
1	水道事業について				
	<p>今回の大震災で本市の水道は20日間以上の断水となった。これは仙南仙塩広域水道への依存度が高いことが理由である。新田の浄水場の再稼働等を検討すべきと考えるがいかがか。</p>				
2	被災者支援、復旧復興事業について				
	<p>被災者支援、復旧復興の取り組みの構えが小さいと言わざるを得ない。土地開発基金の25億円等を有効に活用し、もっと大胆に推進されたい。</p>				

質問順	受付月日	9.26	通告者	6番	米澤 まき子
14番	答弁者	市長・教育長	発言時間	30分	
<p>避難所に指定されている学校施設の防災機能の整備について</p> <p>災害時における地域住民の避難所として役割を担っている学校施設ですが、暖房設備の不足等の様々な課題が生じました。避難所としての学校施設の防災機能の整備について伺います。</p> <p>(1) 学校敷地内への防災・備蓄倉庫設置の現状及び今後の整備の方向性について伺います。</p> <p>(2) 自家発電装置（ソーラーパネルを含む。）設置の現状及び今後の整備の方向性について伺います。</p>					